

読者のページ

「環境図集」の活用を

教育委員会 小林 茂雄

わたくしたちは「住みやすい」「魅力的だ」と、抽象的に言う。人々はともすれば「生活環境の向上を」と要望する。施設を改善し、種々の政策が行われる。しかし結果的に、何かしら不満が残る。抽象的なイメージはわかるが、具現化すると不明瞭なる場合が多い。

大多数の人々が受けとめる感じ方、抽象的な概念を、何らかの尺度で具体的に示す方法が研究されている。メンタルマップ及び視環境評価などがその一例である。

現在、各区で住民の生活実態を地図化する試みが行われている。

る。中・緑区で「環境図集」が刊行された。それは、区民の求める街づくりに関する資料を地図化し、視覚的にわかりやすくしたものである。これをメンタルマップなどの手法に応用してみる。一定の尺度で評価し、因果関係を統計的に処理できれば、地区ごとの生活水準を評価し、どの因子が最大の影響をもっているか理解できよう。

役所とチームプレー

経済局 長谷川 直

西宮市では、生活関連の公共施設を中心に、設置基準を尺度として、学区単位に評価し、因子分析を行った。地域住民の生活実態を知る一応の成果をあげた。また市町村の行政水準を社会指標からとらえ、全国市町村を比較診断する計画も始まろうとしている。

抽象的な概念を地図化し、統計的処理を行うことにより、わかりやすくすることが可能である。

このように「環境図集」、「社会指標」を応用することによって、地域の街づくりの基礎的討議資料として活用したいものである。

私は野球が好きでナイターシーズン開幕ともなるとテレビでよく野球を観戦する。野球を見ていて感じることは、チームの強弱は選手がチームプレーをできるかどうかにかかっているという点である。弱いチームでは選手のそれぞれがヒーローになることを目指して個人プレーに走るのに対し、強いチームでは送るべきランナーを確実にバントで送るなど、各人が目立たない所で自分の役割をしっかりと果しているのである。

るからである。

市役所では比較的単純なルーティンワークを担当するライン部門の職場は予算も権限もなく、職員が創意を働かず余地がないことが多い。こうした職場の職員の役割はいわば送りバントをする選手に相当することになるのかもしれないが、それだからといって「俺達は七番バッターだから四番バッターより打てなくたって当たり前。バントだってうまくいくかどうかかわからないさ」と思うようになってしまったら、市役所としてのチームプレーは成り立たなくなるのである。

最近、職員のモラルの向上という言葉をよく耳にするが、そのためにはスタープレーヤーだけではなく、送りバントをする選手も大切に強いチームのチーム作りの方法が参考になると思うのである。

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「行政研究」への投稿も歓迎します。二〇〇字詰五〇枚以内。都市科学研究室まで（電話六七一一二〇二九）。

この「読者のページ」へもご投稿ください。市政、都市問題、自治体問題等題材は自由。七〇〇字以内。

これは強いチームほど目立たないところで確実に役割を果している選手を正しく評価しており、そのことが一層選手の士気（モラル）とチームワークを高めているということによるのであろう。

市役所の仕事も野球と似ている。どちらもチームプレーが大事であり有能な人間が一人、二人いたとしてもどうにもならないという点で共通するものがある。

△あとかぎ▽ 横浜市民の住宅は量の上では充足された形となっているが、質的充実にはほど遠い現状だ。四十年代は人口急増の原因となる開発抑制が大きな課題であったが、人口増が鈍化した今日、開発抑制の大ワクは変えない中で、市民の住宅の質の向上を考えるべき時期にきたといえよう。

住環境抜きの「家」の充足が個人の責任とされてきた点にひ

とつの問題があり、持家推進策が地価高騰によりマンションへと傾斜して、そのスラム化が近い将来の社会問題となる。公営住宅層から持家層までそれぞれに住宅問題があり、質の問題は地価問題と不可分だ。国の土地住宅政策の制約を受ける中で、自治体行政としてとりうる施策は何か、市民の生活の現状把握に即して論議されるべきなのであろう。 △北小路▽